

居住環境におけるカビの量の評価基準

○木村千暁*、相原真紀*、水ト慶子*、田中辰明**

(*お茶の水女子大・院、 **お茶の水女子大)

目的:住居や建築物内でのカビの多い少ないの判定は難しい。国内では無いに等しく、国際的に見るとイタリアのウプサラにある No.12 Commision of the European Communities Indoor Pollution Unit.は次の判断基準を示している。すなわち <25 (CFU/m³)なら非常に少ない、 <100 (CFU/m³)なら少ない、 <500 (CFU/m³)ならどちらでもない、 <2000 (CFU/m³)なら多い、 ≥ 2000 (CFU/m³)なら非常に多いというものである。この評価がわが国でも適用できるものか、筆者らは東京の地下室、半地下室、一般階のある住宅で毎月1回、4年にわたりカビの測定調査を行い、検討を行った。

方法:換気が行われない地下室は当然カビの多い部屋であり、換気量の少ない半地下室はどちらでもない部屋であり、一般階は外断熱の施されたどちらかというカビの少ない部屋である。この3部屋で空中浮遊菌を中心にエアースンプラーで測定調査を行った。

結果:その結果上記の評価基準と極めてよく一致し、この評価法がわが国でも適用できるとの確信を得た。